

武蔵野市議会議員

支えあうコミュニティ 持続可能な未来

# 内山さとこ 活動報告

2014 春号 No.22

内山さとこ&のびのび歩む会  
〒180-0012 武蔵野市緑町 2-3-A7-501 TEL 080-3758-1057 Email satochi@y8.dion.ne.jp



## 地域の多様な主体が集う協議の場を

コミュニティ活動は、地域の様々な機能、機関をつないで行われます。民生委員や防災委員、地域福祉の会の方々、学校、コミュニティセンター、民間の病院や福祉関連施設など、関係者は多岐にわたります。

3年前、「地域福祉総合計画」策定の際に行われたコミュニティと地域福祉を考えるシンポジウムでは、ハード、ソフト両面での福祉資源をつなぐ重要性が語られました。また、昨年12月に、高齢者総合センターの担当エリアでネットワーク会議が開かれ、多様な主体の風通しのよい関係づくりが期待されます。

支えあいのコミュニティづくりに向けて、暮らしの複合課題を包括的にとらえる、地域での開かれた協議の場を設けるよう提案しました。

## 支えあいの「コミュニティづくり 安心して暮らせる住宅政策を

市議会第一回定例会(2月21日)〜3月26日)において、内山さとこは、福祉の視点でのコミュニティ構想について、また、高齢者、低所得者、被災者など住宅確保が困難な世帯向けの新たな住宅政策について一般質問しました。

## 住まいの安心は世代共通の課題

武蔵野市は、全世帯の半分以上を単身世帯が占めており、特に一人暮らしの高齢者は年々増加しています。

市の「独居高齢者実態調査」には、住まいの安心に関する切実な声が寄せられました。しかし、都営住宅など公共住宅は倍率が高く、市のシルバーピアやひとり親世帯向けの福祉型住宅は、平成7年以降頭打ちの状態です。

現役世代にとっては、仕事の安定と住宅の問題は切り離せません。昨年の総務省調査によれば、労働者の約4割を非正規雇用の労働者が占めており、今後、不安定な雇用環境の中で、安定した住宅の確保はますます重要となります。

最近では、手頃な家賃で共に住まうグループリビング、シェアハウスなど多世代共生型の住まいも増えています(写真)。



元社員寮を改修したシェアハウス(吉祥寺東町) 2階のお洒落な共同空間=リビングルーム キッチン(右手奥)には家電品、調理器具も揃う

## 新たな共生型住宅の武蔵野モデルを

豊島区では、学識経験者や母子家庭の支援を行っているNPOも交えて「\*居住支援協議会」を設置し、住宅課と福祉課が連携し、住宅の確保が困難な世帯と空き家住宅のマッチングを図っています。

一人ひとりの生活に最も身近な自治体こそ、暮らしの基盤である住宅政策が重要です。武蔵野市でも、民間の住宅資源を活用し、新たな福祉的ニーズに対応する住宅政策の展開が急がれます。

\*住宅セーフティネット法で、低所得者、被災者、高齢者、障害者、子育て世帯等、住宅の確保に配慮を要するものが民間住宅に入居できるようにするため、自治体ごとに組織できる

## あなたの笑顔😊にありがとう vol.1

すてきな笑顔でみんなを元気にしてくれる女子力を紹介します  
~福島と武蔵野をつなぐ~ むさしのスマイル

東日本大震災、そして福島第一原子力発電所事故から3年がたちました。今も、ふるさと福島県から離れて暮らす方々が全国におよそ13万人、武蔵野市内には66世帯(137人)がお住まいです。こうした避難者同士の交流の場を定期的に開催している、若いママたちのグループ「むさしのスマイル」の活動について、事務局の松尾さんに伺いました。

—メンバー3人の出会いと、活動を立ち上げるきっかけは?

松尾 避難ママと地元ママをつないだのは東京都助産師会の「里帰りプロジェクト」で、知人がこのプロジェクトのコーディネーターにボランティア希望者として紹介してくれたことからです。子育て中の母親として、「被災した母子や妊婦さんはどうしているんだろう、力になりたい」と思ったことが始まりです。

2011年夏、避難ママの岡田さん(当時、長女・長男を連れ第3子を妊娠中)と、乳幼児子育て中の地元ママとの出会いから始まり、1年間の子育てや暮らしのお手伝いを経て、赤ちゃん出産後、健康に1歳の誕生日を迎えたのをきっかけに、「今度は私が他の避難母子の助けになりたい」という岡田さんが代表となって、「むさしのスマイル」として活動を始めることになりました。

—現在は、どんな活動をしていますか?

松尾 2012年は主に武蔵野市と近隣市区に母子で避難している方対象の交流、そこから「いつでも行けるお茶飲み場があるといい」という意見を受けて、2013年6月からは武蔵野市緑町都営アパート内で「よらんしょサロン」をオープン(福島県地域の寺子屋設置支援事業の助成事業)しました。

月2回の開催で、世代を問わず、幼児からお年寄りまでが気軽に集まれる場となっています。参加者の方が、故郷のレシピで持参してくださるお茶菓子や惣菜がみんなの楽しみになっています。



写真左から、伊東彩さん、岡田めぐみさん、松尾淳子さん 昨年11月3日の交流会「避難者&支援者 at むさしの」で

—昨年11月、都内に避難されている方々に呼びかけ、武蔵野プレイスで交流会を開催しましたね。開催しての感想をきかせてください。

松尾 11月の交流会については、100名規模の会での主催は初めてだったので、スタッフ3名で大丈夫か?という漠然とした不安がありましたが、それまでにつながりを得ていた団体や支援者の協力で温かな雰囲気の会場づくり、交流会が実現できました。

「東京に避難してばらばらになってしまった故郷の人に会いたい」という避難者の想いに応えるため、武蔵野市外の避難者の集いなどに出向いてお知らせしました。再会が叶った様子を見て、発災から3年を目前にしてもやっとここまでか...と思いました。

賠償や帰還といった全体の問題は山積していますが、改めて避難者同士のつながり、経験や想いの共有ができる機会を、避難先自治体や支援団体を中心に検討してほしいと思います。

—ありがとうございました。

「むさしのスマイル」の活動、お問い合わせは下記まで  
musashino.smile@gmail.com  
http://blog.goo.ne.jp/musashino-smile

ひとりの主婦の発案が、2014年ノーベル平和賞の推薦につながりました!「憲法9条にノーベル平和賞を」実行委員会では、賛同者を募っています。「世界各国に平和憲法を広めるために、日本国憲法、特に9条を保持している日本国民にノーベル平和賞を授与してください」。発表は10月、授賞の暁には、内閣総理大臣が胸を張って受けとってほしいですね。